

施設の管理運営

1 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の管理運営 ＜厚生労働省からの受託事業＞

(1) 施設の紹介

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館は、国として、原爆死没者の尊い犠牲を銘記し追悼の意を表すとともに、永遠の平和を祈念し、併せて原爆の惨禍を全世界の人々に知らせ、その体験を後世に継承する施設として、平成 14 年（2002 年）8 月 1 日に開館しました。

建物は、地上 1 階地下 2 階建て、延床面積約 3,099m²で、周囲の景観に配慮し、施設の大部分は地下にあります。

館内には、平和祈念・死没者追悼空間があり、爆心地である「島病院」付近からみた被爆後の街並みを、昭和 20 年（1945 年）末までの死没者数（約 14 万人）と同数のタイルを用いて、パノラマで表現しています。遺影コーナーでは、原爆死没者のお名前と遺影（写真）を公開し、原爆で多くの人が亡くなった事実を伝えます。体験記閲覧室では、被爆体験記や被爆者証言ビデオ、資料映像・写真、図書等を閲覧・視聴できます。また、企画展示室では、企画展を開催し、特定のテーマで、被爆体験記を中心に展示を行い、被爆の実相を伝えています。

さらに、所蔵する被爆体験記や原爆詩による被爆体験記朗読会も開催しています。開館後、令和 5 年 3 月末までの間に、4,912,459 人の入館者がありました。



建物の外観（地上部）



平和祈念・死没者追悼空間（地下2階）

開館時間	3月 ～ 7月	8：30～18：00
	8月	8：30～19：00
	9月 ～ 11月	8：30～18：00
	12月 ～ 2月	8：30～17：00

※8/5 は 8:30～20:00、8/6 は 9:00～20:00

入館料 無料

休館日 年末（12月30日及び31日）

(2) 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開

平成 12 年度（2000 年度）から原爆死没者の氏名・遺影の収集を実施しています。

原爆死没者氏名・遺影の収集状況

（令和 5 年 3 月 31 日現在）

原爆死没者数		
遺影・氏名	氏名のみ	計
23,245 人	2,952 人	26,197 人

(3) 被爆体験記の収集・整理・公開

広島市が平成 9 年度（1997 年度）から平成 12 年度（2000 年度）まで、本財団が平成 13 年度から、被爆体験記等の収集・整理（データベース化）を実施しています。

被爆体験記等の収集・整理状況

（令和 5 年 3 月 31 日現在）

区 分	収集件数	整理件数	進捗率
国収集分体験記（平成 7 年度）	81,203 人分	81,203 人分	100.0%
国収集分体験記（平成 17 年度）	11,778 人分	11,778 人分	100.0%
国収集分体験記（平成 27 年度）	11,331 人分	7,883 人分	69.6%
広島収集分体験記	3,556 人分	3,555 人分	100.0%
図 書	5,798 冊	40,992 人分 (3,031 冊)	52.3%
計	—	145,411 人分	—

（注） 1 国収集分体験記：厚生省（当時）・厚生労働省が各年度に実施した「原子爆弾被爆者実態調査」に併せて収集した被爆体験記をいう。

2 広島収集分体験記：平成 9 年度以降、独自に収集した被爆体験記をいう。

(4) 企画展の開催

企画展示室で一年を通して開催する企画展では、毎年異なるテーマを定め、被爆体験記や追悼記を選び出し、約 30 分の映像作品を制作し大型スクリーンで上映しています。また、タッチスクリーンの端末により、被爆体験記や追悼記を読むことができます。

① 令和 5 年企画展「空白の天気図 — 気象台員たちのヒロシマー —」

1945 年 8 月 6 日、原爆は広島市に甚大な被害をもたらしました。爆心地の南方約 3.7km に位置する広島地方気象台でも、爆心に面したガラスは割れ、職員の中には重傷を負うものが少なくありませんでした。

その状況下でも、「気象観測を担う者は、現象についての時間的な変化を絶えず記録しなければならない」と、最新の気象データを中央気象台へ電報で伝えるため、3 名の若手台員が市の中心部へ向かいました。しかし、そこで彼らが目にしたのは、まさに地獄絵図と

呼べるものでした。

さらに、被爆後わずか 1 か月後に広島を襲った枕崎台風は原爆被害を一層深刻なものにしました。気象台員たちはこの二重災害の被害を後世に教訓として伝えようと、現地へ出向いて一人ひとり詳細な聞き取り調査を行い、貴重な調査報告書にまとめました。今回の企画展では、観測者の視点から記録された被爆体験記をもとに被爆の実相を明らかにします。

期 間 令和 5 年 3 月 15 日（水）～令和 6 年 2 月 29 日（木）
 展示資料 気象台員の体験記（直筆）や広島市江波山気象館の観測器等資料および台員たちの被爆体験記約 20 編を紹介



② 令和 4 年企画展「震えるまなざし — 撮影者たちが残したことば —」

1945 年 8 月 6 日、広島に原爆が落とされた時、湧き上がるキノコ雲をカメラに収めた人たちがいました。それが世界で最初に使用された原子爆弾によって起こされたことを知る由もない中、撮影者は目の前で起きているとてつもない光景に向かって、「カメラを持っていけば、真実としてそういうものを撮りたい」（深田敏夫、当時 16 歳）と、本能的にシャッターを切ったのです。

軍所属のカメラマン、写真館の店主、新聞社に勤務する中学生等、全く異なる職業や立場の撮影者たちが、目をそらしたくなる気持ちを押し殺しながら、ファインダーに映る被爆後の悲惨な状況をいかにしてフィルムに収めたのか。そしてその体験を、彼らの鋭い描写力でどのようにことばに表したかを明らかにします。

期 間 令和 4 年 3 月 1 日（火）～令和 4 年 12 月 29 日（木）
 展示資料 実際にキノコ雲を撮影したカメラ等資料および撮影者たちの被爆体験記約 30 編を紹介



過去の企画展

開催年	タイトル	期間
令和 3 年 (2021 年)	企画展「わが命つきるとも — 神父たちのヒロシマと復活への道 —」 (被爆した祭具、神父直筆の被爆体験記及び神父の遺品等を紹介)	3/1～2/28
令和 2 年 (2020 年)	企画展「時を超えた兄弟の対話 — ヒロシマを描き続けた四國五郎と死の床でつづった直登の日記 —」 (四國直登の日記（現物）、四國五郎実作品約 20 点及び体験記等を紹介)	1/1～12/28
平成 31 年 (2019 年)	企画展「流燈 広島市女原爆追憶の記 最も多くの犠牲を出した女学校の記録」 (広島市立第一高等女学校生徒たちの遺族による追悼記 28 編を紹介)	1/1～12/29

（５）被爆者証言ビデオの制作

被爆の体験を後世へ継承するため、広島県外及び国外在住被爆者の証言映像を収録し、当時の資料写真や証言者の家族写真などを織り交ぜながら、一人20分程度に編集した証言ビデオを制作しています。完成した証言ビデオは、館内及びインターネット上で公開するとともに、平和学習用として貸出を行っています。

令和4年度は、県外在住被爆者13人（東京6人、神奈川2人、大阪3人、福岡2人）の収録を行いました。国外在住被爆者の収録については、新型コロナウイルスの影響もあり、実施しませんでした。



カメラの前に被爆体験を語っていただきます

（６）被爆体験記の朗読事業

① 被爆体験記朗読会の開催

原爆被爆の体験を後世に継承するため、修学旅行などで来館する児童・生徒等を対象とした朗読会、来館者が自由に参加できる定期朗読会、広島市内の学校、公民館等での朗読会を開催しています。令和4年度は広島市内で112回開催しました。



広島市内での朗読会

② 被爆体験記朗読セットの貸出

全国及び海外に朗読の動きを広げることを目的に、誰でも、どこでも被爆体験記朗読会が開催できるよう作成した朗読セットの貸出を平成17年度（2005年度）から行っています。令和4年度は6件の貸出がありました。



被爆体験記朗読セット

● セットの内容

- ・「被爆体験記朗読会」開催マニュアル（進行シナリオ、朗読用の被爆体験記・原爆詩）
- ・原爆被害の概要紹介映像（ビデオ、CD、DVD）
- ・被爆体験記朗読会の開催事例紹介映像（DVD）
- ・朗読用台紙

（７）広島平和学習セミナーの開催

多くの修学旅行生に来館してもらうため、広島市と共同で学校関係者及び旅行会社（教育旅行部門）を対象に、広島での平和学習や体験学習などを紹介する広島平和学習セミナーを開催することとしていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、広島市主催の平和学習講習会に参加する形で、平和学習の紹介を行いました。

(8) 被爆体験記執筆補助

高齢などの理由により被爆体験記の執筆が困難な広島県内在住の被爆者を対象に、体験談の聞き取りや代筆を行っています。

令和4年度は、応募のあった8人の聞き取りを行い、被爆体験記の収集数の増加を図りました。



被爆当時の地図などを見ながら被爆体験を聞き取ります

(9) 多言語化対応事業

海外から来館する多くの人に、母国語で被爆の実相を伝えるため、被爆者証言ビデオの翻訳字幕の作成、被爆体験記の翻訳を行いました。

● 証言ビデオ

翻訳字幕付本数：10言語17本

[累計：24言語1,341本]

● 被爆体験記

翻訳編数：3言語63編

[累計：24言語1,383編]

● リーフレット

翻訳言語数累計：21言語



体験記閲覧室「外国語コーナー」の被爆体験記

(10) 被爆体験伝承者等派遣・語学研修

次世代へ被爆体験を伝承するため、被爆体験証言者や被爆体験伝承者、被爆体験記朗読ボランティアを全国に無料で派遣しています。

令和4年度は、証言講話を12回、伝承講話を374回、朗読会を30回実施しました。

(11) インターネットによる情報提供

事業内容を国立広島原爆死没者追悼平和祈念館ホームページに掲載するとともに、GLOBAL NETWORK(国立広島・長崎原爆死没者追悼平和祈念館 平和情報ネットワーク)に被爆体験記及び被爆者証言ビデオを掲載して被爆の実相を伝えています。

- ・国立広島原爆死没者追悼平和祈念館ホームページ

URL：<https://www.hiro-tsuitokenenkan.go.jp/>

- ・GLOBAL NETWORK

URL：<https://www.global-peace.go.jp/>

● 被爆体験記掲載件数

日本語1,099編、英語223編、中国語162編、韓国・朝鮮語160編、アラビア語9編、イタリア語9編、インド



国立広島原爆死没者追悼平和祈念館ホームページ



GLOBAL NETWORK

ネシア語 9 編、ウルドゥー語 9 編、オランダ語 9 編、ギリシャ語 9 編、スウェーデン語 9 編、スペイン語 9 編、タイ語 9 編、ドイツ語 10 編、ノルウェー語 9 編、ハンガリー語 2 編、ヒンディー語 9 編、フィリピン語 9 編、フィンランド語 9 編、フランス語 9 編、ベトナム語 9 編、ポーランド語 9 編、ポルトガル語 9 編、マレー語 9 編、モンテネグロ語 2 編、ロシア語 9 編

● 被爆者証言ビデオ掲載件数

日本語 716 本、英語 169 本、中国語 160 本、韓国・朝鮮語 173 本、アラビア語 11 本、イタリア語 11 本、インドネシア語 5 本、ウルドゥー語 5 本、オランダ語 8 本、クロアチア語 4 本、スウェーデン語 3 本、スペイン語 16 本、スロベニア語 6 本、タイ語 3 本、ドイツ語 44 本、ハンガリー語 11 本、ヒンディー語 8 本、フィリピン語 3 本、フランス語 37 本、ポーランド語 5 本、ポルトガル語 11 本、マレー語 3 本、ロシア語 15 本

(12) 情報展示システムの保守・管理

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性を確保するため、情報システムの保守・管理を行いました。また、令和 5 年度の情報システム機器更改に向けたシステム改修を行うとともに、企画展示室の改修を行いました。

(13) 施設の管理等

空調設備の大規模修繕など、各種設備機器の保守管理をはじめとする施設の管理運営を行いました。

2 広島平和記念資料館の管理運営

(1) 施設の管理運営

① 施設の紹介

広島平和記念資料館は、人類史上最初の原子爆弾による被害の実相をあらゆる国々の人々に伝え、ヒロシマの心である核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に寄与するため、旧広島平和記念館の改築を機に、同館と旧広島平和記念資料館を一体化し、新たに「広島平和記念資料館(東館、本館)」として平成6年(1994年)6月に開館しました。



広島平和記念資料館(左が本館、右が東館)

旧記念館(現資料館東館)は、昭和30年(1955年)5月に竣工し、当初は各種の催しや会合の場として、その後は修学旅行生らに対する被爆体験の講話や記録映画の上映などの平和学習を行う場として多くの人々に利用されてきました。

また、旧資料館は、平和記念公園の南端中央に位置しており、平和大通り(百メートル道路)から、直接、広島平和都市記念碑(「原爆死没者慰霊碑」)が望めるように高床式に建設された建物で、廃虚の中から立ち上がる人間の力強さを表現したいという思いが込められています。この建物は昭和30年8月に完成し、平成3年(1991年)8月には、建物の改修工事、館内展示の改装を行いました。

この旧資料館が建つまでは、当時の広島市中央公民館のそばに「原爆記念館」が設置され、市の嘱託職員であった長岡省吾氏(のち館長)が、被災資料の収集や調査に当たっていました。被爆直後、原爆の強烈な熱線を受けた瓦などの被災資料が、将来、ヒロシマのもの言わぬ証言者として、歴史的に重要な意義を持つようになることを予想し、当時の浜井信三市長が資料収集の方針を打ち出したのが始まりですが、この資料収集は長岡館長の学究的な情熱と、多くの市民の協力が大きな力となりました。

また、平成18年(2006年)7月5日付けで広島平和記念資料館の本館建物が、戦後建築として初めて国の重要文化財に指定されました。

平成24年(2012年)11月1日、附属展示施設として広島戦後復興に貢献した外国人について紹介するシュモーターハウスが開館しました。

平成26年(2014年)3月から、国の重要文化財である本館を保存し、被爆の実相をよりわかりやすく伝える施設とするため、東館・本館の順に展示リニューアルを進め、平成29年4月に東館が、平成31年4月に本館がリニューアルオープンしました。

ア 施設概要

(ア) 建築面積

東 館	2,538 m ²
本 館	1,351 m ²
計	3,889 m ²

(イ) 建物

東 館	鉄筋鉄骨コンクリート造 地下1階 地上3階 延 10,360m ² 、展示室、ビデオシアター、ホール、会議室、情報資料室、収蔵庫、事務室、ロビーなどのほか、館内に平和記念公園来園者のための休憩所、売店、公園管理事務所などを配置
本 館	鉄筋コンクリート造 地上2階 一部中3階（ピロティ型） 延 1,615m ² 、展示室、ロビー

(ウ) 開館時間

展示室	3月～7月	午前8時30分～午後6時まで
	8月	午前8時30分～午後7時まで
	9月～11月	午前8時30分～午後6時まで
	12月～2月	午前8時30分～午後5時まで
ホール	利用時間（通年） 午前9時～午後9時	
情報資料室	午前9時～午後5時	

※展示室への入館は閉館30分前まで。

8/5、8/6 は午前8時30分から午後8時まで

(エ) 休館日

12月30日及び31日（ホール 12月29日～1月2日）

※2月中旬に展示入替のための臨時休館あり。

イ 展示内容

東 館	①導入展示 ②核兵器の危険性 ③被爆者証言ビデオコーナー ④広島 島の歩み ⑤企画展示室 他に、原爆の記録映画が視聴できるビデオシ アター、「新着資料展」などの展示室や修学旅行生らが被爆体験者の証 言などを聴くことができるホール、会議室、平和に関する図書資料など の閲覧ができる情報資料室を設置。
-----	--

本 館	「8月6日のヒロシマ」、「被爆者」の2つのゾーンからなり、①8月6日の惨状、②放射線による被害、③魂の叫び、④生きる の4つのコーナーで被爆者の遺品、被爆の惨状を示す写真や絵などの資料を展示し、被爆の実相を伝える。
-----	---

ウ 料金 (令和5年3月31日現在)

個 人	大人	200円
	高校生	100円
	中学生以下	無料
団 体	大人	(30人以上) 160円
	高校生	(20人以上) 無料

- 土曜日は高校生無料（ただし、祝日、春・夏・冬休み期間を除く）
- その他、原爆障害者章、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、特定医療費（指定難病）受給者証又は小児慢性特定疾病医療受給者証を提示いただいた場合、その介護者の方も併せて無料で入館できます。
- 65歳以上であることを確認できる公的証明書を提示いただいた場合は、100円で入館できます。



導入展示（東館）

② メモリアルホールの利用方法

ア 収容人員

316席（椅子席312、車椅子用スペース4）

イ 使用申込手続

(ア) 受付時間

- ・ホール使用のお申し込みは、使用日の6か月前から受け付けます。
- ・受付時間は午前9時～午後5時（土曜、日曜日、祝日及び12月29日～1月3日を除く）です。
- ・広島平和記念資料館事務室で所定の申請書に記入の上、お申し込みください。

(イ) 申請書の記入

所定の申請書に、使用目的の内容、使用時間、入場料徴収の有無などを具体的に記入してください。

なお、使用時間は準備から後片付けまでの全ての時間を含みます。

(ウ) 使用の変更

都合により、取り消し又は使用日等を変更される場合は速やかに連絡してください。



メモリアルホール

ウ 使用料

区 分		使用料の額						超過使用料の額 (30分までごとに)		
		午前	午後	夜間	午前午後	午後夜間	1日	午前9時から 午後5時まで の時間	その他 の時間	
入場料等を徴 収しない場合	平日	円 17,180	円 19,100	円 31,800	円 29,030	円 40,660	円 54,460	円 3,720	円 7,460	
	土曜日、 日曜日、 又は休日	20,600	22,840	38,110	34,800	48,790	65,340	4,480	8,960	
入場料等を徴 収する場合	入場料等の 最高の額が 1,000円未 満のとき	平日	25,720	28,620	47,720	43,560	60,960	81,680	5,550	11,200
		土曜日、 日曜日、 又は休日	30,860	34,270	57,110	52,200	73,150	98,030	6,720	13,440
	入場料等の 最高の額が 1,000円以 上のとき	平日	34,370	38,220	63,630	58,080	81,350	108,930	7,460	14,940
		土曜日、 日曜日、 又は休日	41,200	45,700	76,230	69,610	97,600	130,700	8,960	17,920

品 名	単 位	使用料の額	超過使用料の額 (30分までごとに)
ローアホリゾントライト	1式につき	円 640	円 100
アッパーホリゾントライト		860	140
ボーダーライト		520	85
シーリングライト	1台につき	200	35
サスペンションライト			
スポットライト			
拡声装置	1式につき	1,620	260
ダイナミックマイク	1本につき	520	85
コンデンサーマイク			
ワイヤレスマイク			
ステージスピーカー	1式につき	3,180	520
カセットテープレコーダー			
デジタルオーディオテープレコーダー			
コンパクトディスクプレーヤー			
16ミリ映写機	1台につき	3,300	530
スライド映写機		2,200	365
ビデオプロジェクター		22,000	3,680

ビデオデッキ	1台につき	3,180	520
オーバーヘッドプロジェクター	1台につき	2,650	440
オーバーヘッドカメラ			
電源装置	1kWまでごとに	250	45

(備考) 午前：午前9時から正午まで 午後：午後1時から午後4時まで 夜間：午後5時から午後9時まで

③ 入館者状況

(単位：人)

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
総入館者数	328,590	405,987	1,126,381
(うち外国人)	(12,192)	(14,220)	(145,118)

④ 観覧料の収納

広島市からの委託を受けて、広島平和記念資料館の観覧料収納事務を行いました。

○ 新着資料展

広島平和記念資料館では、原爆被害の実相を伝えるための貴重な資料として、被爆者やその遺族が保存されている被爆資料の収集・保管に努めています。令和2年度(2020年度)に寄贈された307点の資料の中から100点を展示しました。

展示場所 広島平和記念資料館東館地下1階 特別展示室

展示期間 令和4年3月17日(木)～令和5年1月31日(火)



西東美彌子さん(当時23歳)の遺品
寄贈／西東香代子さん

戦後77年が経過し、被爆資料や資料にまつわる詳細な情報の収集が次第に困難になっています。当館では、核兵器の廃絶のため、原爆がもたらしたさまざまな被害を将来にわたり伝えていきます。被害資料の当館への寄贈について、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

(2) 広島平和都市記念碑(原爆死没者慰霊碑)の維持管理

広島平和都市記念碑(原爆死没者慰霊碑)の維持管理をしました。